



○ 炎

4月28日に火災対応の避難訓練を行いました。本校は調理で火を使うことが多いので大切な行事です。今回、火元などの細かいことは学生たちには知らせずに行いました。行動の予定が終了して消防署の方に講評をしていただきました。私もそのあとに総評を行う場面がありましたが、初夏の気候で暑くもあり、長話にならないよう短く話してみました。本当は伝えなかった内容はたくさんあります。そこでこのたよりを使ってその他のことを記述してみたいと思います。

まず炎です。人間は火を活用することによって豊かな生活を送ることができるようになりました。調理をすればより美味しく栄養が摂れます。また、ろうそく・囲炉裏・ストーブなどの炎を眺めていると癒やされるというような面もありますね。しかし、火事などの炎は大切なものを灰にしてしまう恐ろしい面もあります。人間の味方にもなるし敵にもなってしまう存在ですね。

私は火事(ぼや)に出会ったことが実は数回あります。(野次馬的なものではなく、自分に関係するものです。)ここで記述できるものを二つ紹介します。一つは勤務していた学校でのことです。グラウンドで運動会の練習をしていました。私は放送係の担当でした。ある時突然音楽が途切れたので、電源を取っていた体育館の配電盤を見てくるよう生徒に指示をしました。するとその生徒はあわてて戻ってくるなり、「先生、燃えています！」というではありませんか。見ると体育館の天井、一番高いところに直径50cmくらいの炎がありました。私の頭の中では全焼した体育館の映像が流れました。119番するとともに消火活動を行いました。天井に届くような水圧はなく、焦ったことを思い出します。防災素材だったのでそのうち自然に消えました。花への水やりホースでは到底届かないことは冷静に考えれば分かることですが、やはり人間あせると不思議な行動をするものですね。この出来事は夕方のNHKニュースで放映(動画付き)されましたので、今公表できています。原因は漏電でした。

二つ目です。ある年にお宮(地域の^{ほこら}祠)の世話係になった時のことです。定期的に落ち葉の片付けや掃除をするのが役目でした(作業自体は数人で行います)。現在は環境への影響もあり、たき火をすることは控えた方がいいですが、当時はいつものように集めた落ち葉を境内で焼いていました。一通り作業が済んでいったん家に帰りましたが、「もう一度念のために火の元を確かめておこう。」と思い、引き返しました。焼いた場所はほぼ鎮火しているようでしたが、ふと上を見たら、木の幹が小さく燃えています!おそらく火の粉が飛んだのでしょう。その瞬間私の頭の中では山火事の映像が流れました。小さな祠は通常無人です。携帯電話もそのときは持っていませんでした。水道もありません。すぐそばの溝からバケツに水をくみ、必死の消火活動を一人で行いました。高さは私の身長^の三倍くらいです。必死でよじ登りました。幸い消し止めることができましたが、怖い思い出として記憶に残っています。火事のニュースでは「逃げ遅れて死亡」というものがたまにあります。逃げようと思えば逃げられるけれども、火を出した責任から消そうとしている間に逃げられなくなったケースが多いのではないかと、私はこの経験から思いました。それにしても水の入ったバケツを抱えて木登りなんて、普通はできませんよね。

さて、避難訓練に戻ります。訓練は毎回似たような内容で行われます。私は内容が似ていても定期的に行うこと自体が大切だと思っています。経験していれば、“本番”で行動の仕方を思い出すことができます。放送設備の使い方を再確認することもできます。避難の仕方も個人と集団とは違うので、その方法を知ることできます。今回このたよりで恥ずかしい私の経験を紹介しましたが、誰かの何かに役立つばと思っています。(役立つような場面に出会わないことが大切ですが・・・)

○ 自校自賛

訓練では代表者が消火体験をしました。中でも2年生3人の「火事だ〜!」の大声が大変素晴らしかったです。放送設備が使えない時のあの声は人を助けます。私が聞いた今まで一番の音量でした。